

令和7年度 第5回甲賀市社会教育委員の会議 定例会議事録(要約)

日時：令和8年(2026年)3月19日(木)

15時00分～16時50分

場所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

出席者 (委員)西村委員長、岡村副委員長、井ノ口委員、東委員、古賀委員、福井委員、
松本委員、中村尚委員、辻委員、石田委員 以上10名

(図書館)篠原信楽図書館長

(事務局)松下次長、林課長、野田係長、沢井社会教育統括指導員

傍聴者 1名

委員総数12名の内、10名が出席。甲賀市社会教育委員会議規則第3条第2項の規定により、過半数を満たし会議成立。

1. 開会 市民憲章唱和
2. 課長あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 協議 甲賀市図書館のあり方に関する協議

資料説明 貴生川駅周辺整備事業「キラッタ・プロジェクト」

(仮称)ラーニングセンター(新しい図書館)について 別紙資料

松下次長より説明

(次長)公民連携事業として、貴生川駅周辺整備を行う計画。位置説明

賃貸住宅をつくり、そこに住む方や周辺の方が価値を生み出す必要があり、その中で図書館という発想が出てきた。

3つの機能を持つ施設。1つ目は図書館。市内5図書館とのネットワークを組む。2つ目はパブリックリビング。小部屋をつくり、ビジネスや学習、イベントなどによる交流居場所エリア。3つ目はSTEAM教育のプレイグラウンド。サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、マシマテックの活用。VR体験活動も。

今までの図書館と異なる機能。移動STEAM館のような機能も考えられる。5館プラスワンとして考えてもらえたらと思う。

3月24日に都市経営シンポジウムが碧水ホールで開催され、公民連携について実例をもとにお話がきけるので、参加できる委員は出席していただきたい。

質疑応答

(委員)貴生川コミセンの建て替えとのかかわりや機能分担はどう考えているか。

(次長)今の段階では、ラーニングセンター内にコミセンが入ってくることはない。地域の方のコミセンへの思いとラーニングセンターの機能があっていくのか検討課題。今後は市民活動推進課も交えてコミセンのあり方も含め検討する。

(委員)ねらいはよくわかったが、貴生川周辺の住民以外の利用率はどうか。信楽や土山の住民は利用しづらいのではないか。

(次長)貴生川周辺を甲賀市の人口減少を押しとどめるダム機能としてとらえていく。貴生

川駅はコミバスの終点でもあり、条件は良い。シン・図書館的な発想で、ここでの取り組みを市内に広げる拠点となれば良いと考えている。

(委員)前回の会議では、図書館の核となる機能を持つ中央館的なものが必要という議論があったが、ここがその役割を果たすのであればよいと思う。「キラッタ」という言葉はなじみが薄い。

(委員)ラーニングセンター建設の目標年度はいつぐらいか。

(次長)令和 12 年を目指している。財政が厳しく、補助金をあてにすると令和 12 年と考えている。

(委員)駐車場はあるのか。

(次長)〈図で説明〉現在の南口の駐車場はほぼ確保できる。

(委員)無料か？

(次長)施設利用の場合は無料。他は有料となる。

(次長)現在の図書館の数をどうするかだけではなく、施設の価値をどう高めるのが重要。その意味でシン・図書館が重要な役割を果たせるようにしたい。公民館がコミセン化し、図書館の中にコミセン機能を入れ込んでいく中で、知の拠点であり、社会教育の拠点、コミュニティの拠点になっていくと価値が上がる。

(委員長)それでは2つのグループに分けて協議を行ってください。

(次長)本日提案した貴生川の動きもあるが、それを頭に入れながらもあくまでも5館をどうするかというテーマで論議いただきたい。

(事務局)前回、的が絞れなかったこともあり、今回は資料にある3つの例を軸に考えをまとめて論議していただきたい。

グループ協議後、各グループの発表

(Aグループ委員)結論から言うと、中央館的な図書館が一つ、残りは地域館として、やがては公民館と一体化する。現在の図書館に機能をまとめる場合やその逆もありうる。蔵書は中央館で一括管理し、地域館は蔵書もそんなに沢山はいらない。どちらかといえば、地域の人が集い、催し物を楽しむような居場所になることが必要。このためには縦割りではなく、社会教育課や市民活動推進課との連携協議が不可欠。貴生川の図書館と中央館、地域館がオンラインで結ばれ、その機能を市民が広く利用できるようにすることが必要だとの意見が出た。

(Bグループ委員)お金を使わずに、サービスを上げなければならないのは難しいと思う。5館を今までどおり維持するのは難しい。土山は便が悪く、市民センターや旧の中央公民館に移してはどうかとの意見も出た。移動図書館は学校での利用が多いが、地域では利用も少ない。逆にコミタクを図書館に運航し、人を集めるのも必要かと思う。貴生川の施設はどちらかといえば若者向けで、高齢者の利用も考えていかねばならない。貴生川を中央館的にして、他の図書館は縮小になるかもしれないが、サービスを低下させない工夫が必要かとも思う。

(委員長)他に付け加え等の意見はありませんか。それでは、今回の論議を含めて次回に深めるということでしょうか。

(委員)一つの課で完結する話ではないので、各課の連携が必要。これからの議論にも関係各課からも出席を求めたい。

(課長)まずは8月に提言をあげていただく中で、横の連携の必要性も上げてもらいたい。それを受けて、次の段階に進んでいくものと考えている。

(委員長)それではこれで今日の協議は終わらせていただきます。

5. 今後の予定

(事務局)8月に提言書をまとめるために、5月、6月、8月に会議を予定している。できれば5月に先進館の視察(伊賀市中央図書館等)の視察を考えている。各委員さんでも他の図書館を視察していただけるとありがたい。

(課長)来年度から機構改革のため、社会教育課が社会教育委員の会議の担当になる。

6. 閉会挨拶 岡村副委員長